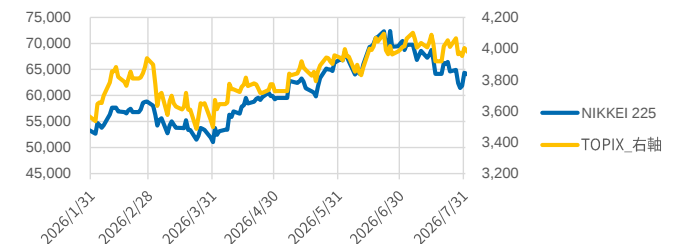
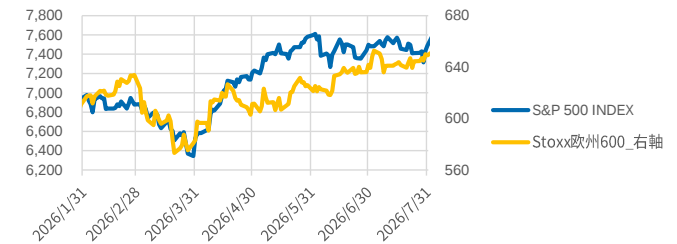


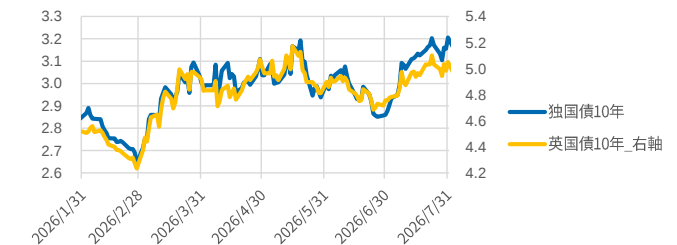
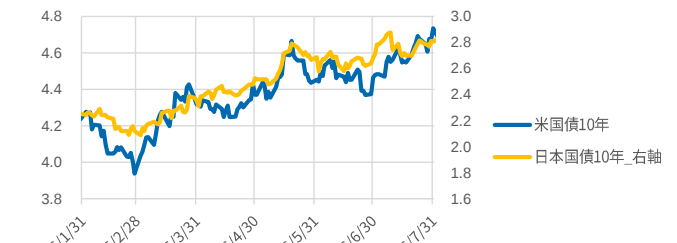
2026年7月の金融市場動向・今後の注目点

2026/8/14

株式	
米国	利上げ観測後退と好決算で月末に反発 S&P500は月間▲0.1%。上旬は決算シーズン本格化前で材料難となる中、底堅く推移。中下旬は米イラン軍事衝突の再燃やホルムズ海峡封鎖再導入表明を受けた原油高を背景に、Fedの利上げ観測が強まり下落。月末はFOMCでの金利据え置き、コアPCEの下振れに加え、メガテック企業の好決算を受けて反発。
日本	半導体株主導で日経平均は下落。TOPIXと乖離 日経平均は月間▲8.1%と米国株に劣後。AI・半導体関連への期待値修正を背景に、米韓半導体株安や中国勢の技術進展への警戒感も重なって値がさ株中心に下落。一方、TOPIXは同+0.2%と堅調で、日経平均下落への寄与は東京エレクトロンやキオクシアなど半導体関連の主力銘柄に偏った。
欧州	エネルギー・銀行株高で欧州株は上昇 Stoxx欧州600は月間+1.2%とS&P500を上回った。中東情勢を巡る原油高を追い風に、ShellやBPなどの石油メジャーを中心とするエネルギー株が最大の押し上げ役となった。また、HSBCやBBVAなどの銀行株も好決算を背景に堅調に推移し指数を牽引。テクノロジー比率の低い欧州は半導体株調整の影響が限定的で、月間でプラスを確保。
注目点	中東情勢の再緊迫化による地政学リスクに加え、AI関連投資の収益化と投資拡大の持続性が引き続き焦点。日米協調介入後のドル円、米金利の方向性にも注目。



債券	
米国	原油高に加えて月末のFOMCで長期金利に上昇圧力 米10年国債利回りは月間で上昇。CPI・PPIの下振れを受けて一時的に低下する場面もあったが、原油価格連動で上昇基調。下旬には原油価格がピークアウトした一方、29日のFOMC後は政策運営を巡る不透明感から長期金利は上昇。月末には4.7%台と、トランプ政権発足以来約1年半ぶりの高水準となった。
日本	財政拡張懸念がくすぶり長期金利は高止まり 日本10年国債利回りは月間で上昇。上旬は骨太の方針への警戒感や原油高を背景に2.9%近辺まで上昇したが、片山財務相による年金基金の国内投資後押し発言や堅調な20年債入札を受けて上昇は一服。その後は消費減税の財源を巡る不透明感や円安を背景に再び上昇したが、需給改善期待が下支えとなり、月後半の上昇幅は欧米対比で限定的となった。
欧州	原油価格に連動して金利上昇 独10年国債利回りは月間で上昇。上旬から中旬は米・イラン情勢の再緊迫化に伴う原油高や、防衛費増額を含むドイツの2027年予算案を受けて上昇し、約15年ぶりに3.2%台へ達した。その後、米・イラン協議再開への期待から原油価格に連動して低下したが、月末は米長期金利上昇の波及を受けて再び3.2%台となった。
注目点	日銀・FRBの9月会合での利上げ有無が焦点となる中、CPI(米12日、日本21日)やPPI(13日)などの物価指標に警戒。27～29日のジャクソンホール会議でウォーシュFRB議長が示す政策判断の枠組みや金融市場とのコミュニケーション方針に注目。



- 当資料は、情報提供を目的として、CCIアセットパートナーズが作成したものです。特定の運用商品等の売買を推奨・勧誘するものではありません。
- 当資料にもとづいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
- 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料は当社が信憑性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

〔出所〕 bloomberg, CCI アセットパートナーズ